

相模女子大学
相模女子大学
短期大学部

適性検査で自分の可能性に気づき 職業選択の視野を広げる

自己分析と職業選択のサポートツールとして活用

女子教育に121年の歴史を持つ相模女子大学・相模女子大学短期大学部は、学生のキャリア形成にも力を入れています。夢をかなえるセンター就職支援課では、就職活動を成功させるためには「自分の強みと弱みを知ること」「経験を通して様々な働き方を理解すること」「自分に自信を持つこと」が必要との考えのもと、社会で役立つ力を測定して自分自身を知るためにGATBを活用しています。武石聡子課長にお話を伺いました。



夢をかなえるセンター就職支援課長
武石聡子氏

集団で実施後、 個別面談で結果を確認

——厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）をどのように使用していますか。

本学では、就職支援の場で20年以上前からGATBを使用しています。言語と非言語の能力が総合的にわかりやすく、ハローワークなど公的機関で使用されていて信用性が高いので、継続しています。

従来は大学3年生と短期大学部1年生を対象に4月に行われるガイダンス1回目の出席率の最も高いときにGATBを実施していましたが、新型コロナウイルス流行後は、大人数が集まる場を設けることが難しくなったので、5月から7月にかけて少人数制で予約を取り、回数を分けて実施しました。

就職支援課では、学校の成績に加えて、GATB、SPI、PROGなどの適性検査の結果などを併せて参照しながら、支援を行っています。就職活動中の全学生に進路登録カードを作っており、面談の内容やGATBの適性得点などをすべて記録しています。

——GATBの判定結果をどのように利用していますか。

学部ごとの統計を出せば何かしらの傾向が出ると思いますが、現在は個々の学生に対応する形で結果を活用しています。学生にはGATBの個人結果票とワークシート「結果の見方・生かし方」を一緒に渡しています。

大学3年生と短期大学部1年生に

は、春学期から週1回就職準備講座を行っています。その中では自己分析に力を入れています。中には自力で自己分析を行うことは難しい学生もいるようで、時間をかけても結局わからないということがあります。そのような学生には、客観的なデータであるGATBの判定結果を参考にして自己分析を進めるようにアドバイスしています。

大学3年生と短期大学部1年生の全学生と9月以降に個別面談を行っている中で、学生に事前に渡した結果票を個別面談の際に持参してもらって、一緒に結果を確認しています。

それまで関心がなくても、
適性がありそうな分野の職業にも
目を向けさせる

——GATBの結果について学生の反応はいかがですか。

結果については、学生は概ね納得しているようで、「意外な結果だ」というような声はあまり聞かれませんが、

学生は、40種類の適性職業群のうち、どの職業群に適性があるのかを見ているように思います。就職支援課では、7種類の適性得点と適性プロフィールを見て、その学生は何が得意で何が不得意なのかに注目します。

希望する職業が決まっています。その職業に関連する適性職業群との照合結果が良かった場合は、「私はこの道に進んでいいのね」と自信につながります。反対のパターンの場合は、「そん

な考えもあるのか」程度の受け止め方が多いようです。

一方で、特に興味を持っていなかった職業分野に適性があるという結果だったり、得点が高い適性能が生かせる職業にこれまでは関心がなかった場合は、その分野や適性能に関連のある職業についても検討するようにアドバイスをすることになります。

例えば、適性能の高い分野から判断し、システムエンジニアなどに向いているのではないかと、というアドバイスをしています。それまではその分野への関心が低かった学生でも、職業として意識するようになることがあります。適性があるかもしれないということに自分では気づいていなかった分野でも、「可能性としてあり得るのかな」と思うようになります。

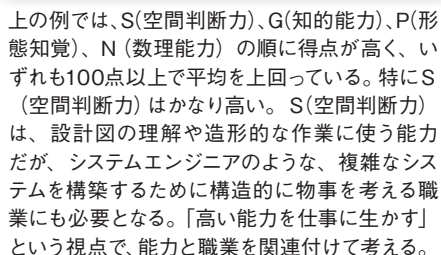
学校の成績などから学生が希望する方面の職業に就くのはかなり難しいと思われる場合でも、学生はなかなか他の職業分野へ目を向けないものですが、GATBのような客観的なデータがあると他に適性があると思われる職業にまで視野を広げる支援をしやすと感じています。

例えば、設計関連の仕事を希望している学生が「空間判断力」が低い場合は、本人も希望の職業に就くのは難しいのではないかと考えるので、視野を広げて適性がありそうな他業界の職業についても検討していくようにアドバイスをしています。



GATBは、いろいろな職業分野で仕事をするうえで必要とされる代表的な9種類の適性能を測定する。ある仕事を行うには、学習や訓練などによってその仕事に必要な知識や技能を身につけなければならない。それらを身につけるための基盤となる能力が適性能であり、適性能が高いと、早く高いレベルまで身につけることができる可能性が高いということ。(*相模女子大学・相模女子大学短期大学部では、F・Mは測定していません。)

1/2



希望する職業と関連する職業群に適性があるか確認することができるので、「H：基準を満たしている」や「m：基準をほぼ満たしている」という結果であれば、自信につなげることができる。また、適性のある職業群にはどのようなものがあるか、知ることができる。各職業群の職業例は、ワークシート「結果の見方・生かし方」に掲載されている。

です。自信を持って」と伝えるようにしています。

職業選択のサポートツールとして、また自己分析のサポートツールとしてもGATBは活用しやすいので、今後も使用していきたいと考えています。